



「行事について」

11月3日(水)・・・幼児クラスの参観運動会(詳細はお手紙をご確認ください)

5日(金)・・・秋のお散歩・お弁当楽しもう会ではお弁当の準備よろしくお願ひ致します

19日(金)・・・総合防災訓練(消防車、消防隊員が来ます)

20日(土)・・・乳児クラスの保育参観日(詳細を決定し、後日お手紙の配布、各クラスからの貼り出し等を行いますのでご確認ください)

12月11日(土)・・・幼児クラスの生活発表会(詳細を決定し、後日お手紙を配布いたします)

＜読書の秋＞

一回目の読書週間は1947年に行われ、毎年10月27日から11月9日までの2週間です。なぜ読書の秋と言われるようになったかという秋になると日が落ちるのが早く、夜が長いことから集中して本を読む時間が長くなるため、読書の秋と呼ばれるようになったそうですよ。また、その起源は中国の詩人の詩からきています。

保育園でも毎日、先生が子どもたちにいろいろな絵本を読み聞かせしたり、本棚から子どもたちが好きな絵本を選んで観たりと絵本を楽しむ姿があります。昨年のゆりぐみが命名した「まほうのにこちゃん」という移動式本棚(園長先生が選んだ15冊)も、幼児組の部屋を順番にまわり、その中からも手に取って観たり、読んだりしています。

少しの時間でも大好きなお父さんやお母さんに絵本を読んでもらうことは心に残ります。読み聞かせの良い点として下記のようなことがあります。

☆大人(親や保育士)と子どもの親密な人間関係の基礎になる「愛着関係の形成」や一緒に絵本を通して思いを共有、共感することで子どもの安心できる時間になる。

☆大人が自分のために読んでくれているという「幸福感」を満喫できたり、読み手も緊張や不安の抑制になったりリラックス効果がある。

☆子どもの好奇心のきっかけ作り、友達との関わり作り、優しさ、悲しさ、色や物の美しさ、言葉のおもしろさなどに気づくことができる。

☆イメージや創造力が膨らむ。

＜いもほり＞

今年も畑でいもほりを楽しみました。今年は小さめのものが多く、少し実りが悪かった部分もありましたが、つるを引っ張り、土を掘っていき、さつまいもの頭が見えると大喜びの表情。「出てくる おいもは 泥んこおいも〜♪」と歌いながら収穫に夢中になっていました。小さいクラスは収穫したさつまいもを土の中に戻してつるをかけ、お芋ほりごっこを楽しみました。焼き芋会が楽しみです。



仲間が増えました

先月、すみれぐみやひまわりぐみのお父さんやおじいちゃんがお家で育てているメダカを保育園に分けてくださいました。大きいメダカや銀色に輝くメダカなど水槽の中が賑やかになりました。

